

日本庭園の役木に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 寂然木は、庭の添景として通常南向した庭の西側に植える。カエデ、ウメ、サクラなどの落葉樹が用いられる。
2. 景養木は、庭滝の手前の水落ち部分へ枝を差しかけて木を植え、飛泉の水があらわに見えないように奥深く見せる目的で植える木で、カエデなどの落葉樹が用いられる。
3. 見越木は、庭の境界に添えて植栽される背景木で、マツなどが用いられる。
4. 正真木は、<sup>あずまや</sup>庭園の四阿、亭の軒先に添えて植える。木陰をつくる木で、マツを第一とし、クリ、カキなどを用いる。
5. 流枝は、袖垣の柱に添えて植える木で、ウメなどが用いられる。